

第 15 回中部 MIST 研究会 in 金沢 開催報告

当番幹事 吉岡克人
(金沢医療センター)

第 15 回中部 MSIT 研究会を 9 月 28 日 (土)、石川県金沢商工会議所にて開催いたしました。多数の参加者に恵まれ、盛会のうちに無事終了いたしましたので、ここにご報告いたします。

9 時 50 分より一般演題 12 題の発表がありました。今回はできるだけ若手を座長にしたいと考え、前回の中部 MIST 研究会でベストコメント賞を受賞された蔵満紀成先生を座長の一人にお招きました。また、研究会ならではのアットホームな雰囲気を出そうと、各演者には発表に自己紹介スライドを入れてもらいました。特別講演やランチョンセミナーの先生方も自己紹介スライドを入れてくださり、意外な一面を知ることができ盛り上がったと思います。一方で、一般演題の Discussion が予想以上に盛り上がり、質疑応答の時間が短かったと反省しております。座長の先生方にはご迷惑をおかけしました。演題は多種多様であり、どれも非常に勉強になりました。優秀演題賞は、かなり票が割れましたが、富山県立中央病院 笹川武史先生の「脊椎インストゥルメンテーションを用いた骨盤輪骨折手術の有用性」が選ばされました。難易度の高い大変な症例に対し MSIT 手技を用いた“はまらない手術”を確立させ、発表もわかりやすく勉強になりました。ベストコメント賞には毎回鋭い質問を連発された、堀岳史先生が選ばされました。

特別企画として、「骨転移を極める！～今日から始める骨転移診療～」を開催しました。岡山大学・中田英二先生には「骨転移の体系的な診療体制による麻痺予防」について、がん・感染症センター都立駒込病院・杉田守礼には「脊椎転移への取り組み～診断から治療への第一歩～」を、金沢大学・加藤仁志には「脊椎転移手術の適応と術前評価・周術期管理のポイント」をそれぞれご講演頂きました。骨転移に対し、3 人それぞれの視点からわかりやすく解説して頂き、いずれの講演も非常に勉強になったとのお声を頂きました。MIST っぽくはありませんでしたが、どうしても取り上げたかったテーマであり、私個人としては勝手に満足しております。

また、ランチョンセミナーの佐賀大学森本忠嗣先生のご講演「Sagacity in MIST」も私が熱望したのですが、脊椎外科医としての自分史から研究、学生や研修医への教育まで熱く語って頂き、あつという間の楽しい 1 時間でした。幅広くご活躍されている先生のモチベーションの原点が垣間見え、さらに座長の宮本敬先生と共に盛り上げてくださいり、若手からベテランまで心に刺さる内容だったと思います。



14時45分からは手術室看護師を対象とした、恒例のハンズオンセミナーを開催しました。最初に3名の講師の方にミニレクチャーをして頂きました。PPSの基本手技について近藤章先生から丁寧な解説があり、皆聞き入っていました。次に今回はMIST研究会ではあまり扱うことのない頸椎の後方スクリュー固定について、大塚聖視先生より頸椎全般に関する体系的な話から手術手技の注意点まで講義して頂きました。最後に当院手術室看護師の白梅つかさ看護師から手術室看護師の教育について、悩みや工夫を当事者目線で語って頂きました。その後、会場を移し、TLIF/PLIF(Stryker)、脊椎外傷のPPS固定(Medtronic)、頸椎後方固定(DePuy Synthes)について、各社からご提供いただいた機器を用いて実際の手術手技を行いました。各テーブルとも時間が足りないくらい盛り上がっており、参加者からは「自分でやってみて頸椎のスクリュー固定の怖さがわかった」との感想も頂きました。



前日には懇親会を開催しております。詳細は割愛させて頂きますが、金沢らしい会場をご用意し、皆で親睦を深めました。



第15回中部MIST研究会開催に際しましてご協力を頂いた皆様、ご参加いただいた方々、誠にありがとうございました。また、この場をお借りして本研究会の趣旨にご賛同いただきました多くの企業の皆様に心より深く感謝申し上げます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。